

## 講評

---

### 漢字に親しみ、適切に活用することのできる児童の育成

#### ——『正色漢字辞典』づくりを通して——

本報告にはドラマがあった。もともと「漢字に親しみ、適切に活用することのできる児童の育成」を研究主題に掲げ、さまざまに工夫した漢字学習指導を展開していた名古屋市立正色小学校が、当協会の助成をもとに「正色漢字辞典」という唯一無二の漢字辞典を作り上げた。この辞典は、小学生が小学生のために作った漢字辞典である。報告には完成までの工程がつぶさに示されているが、むろん一朝一夕に出来上がるわけではなく、企画から製本まで児童も教師もたゆまぬ努力を続けていくことになる。

今後の活用まで見越してつくられたこの漢字辞典ができあがった時、児童は嬉しかったであろう。自分の担当した漢字、友達の担当した漢字、他学年の児童が書いた漢字など何度も繰り返して目にしたに違いない。しかし、この活動を通して最もその成果をかみしめたのは、正色小の先生方だと私は思う。工夫すればするほど、さらに良いものをと、高みを希求していく教員集団の姿は、教育の原点とは何かということを改めて考えさせる力があった。

(奈良教育大学国語教育講座 教授 棚橋 尚子)

### 日本語教師の授業内発話コーパスの作成

本研究は、日本語教師の初級日本語の授業内の発話をコーパス化するものである。ティーチャートークの分析についての基礎資料となり得る。10名の教師による約20時間の授業が、学習者人数、教材、教師の年代・性別・教師歴などと共に整理される。十分に多いとは言えないが、貴重なデータである。発話者自らに文字化を依頼することで、プライバシーや秘匿すべき教授法の情報などについての保護が図られている。完全に真正なデータとは言えない側面が生ずるが、現実的な問題解決の工夫として是認すべきであろう。文字列、形態素、両方による絞り込み、という検索が可能だが、主要指導項目、新出語の反映などについてもこれから整えていく由である。音調情報、学習者の情報の拡充等についても是非期待したい。

教師歴が長い教師に、省略や終助詞、フィラーが多い傾向が見られた等の知見も示されるが、その理由や効果なども知りたい。そうした、本コーパスを利用した研究の方向性の検討も期待したい。

(早稲田大学文学学術院 教授 森山 卓郎)

### 非漢字圏学習者のための漢字学習ストラテジー尺度の開発

本研究では、漢字500字以上を学んだ非漢字圏日本語学習者28名と日本人大学生18名に漢字および漢字語彙の学習方法についてインタビューを行い、その回答内容から「テロップや字幕の漢字語彙の意味を調べる」「漢字学習用スマホアプリで漢字を覚える」「日本語の歌の歌詞を読む」など87の漢字語彙学習ストラテジーを抽出している。次に、非漢字圏学習者155名と日本人大学生153名にアンケート調査を行い、87のストラテジー項目の中で使用頻度の比較的高いものを選んで、因子分析を行い、関連性の強いストラテジー項目群を、日本人の場合は9つ、非漢字圏学習者の場合は8つに分けている。

本研究は、2つの調査により大量のデータを収集、分析し、学習者が漢字語彙を覚えるためにさまざまな工夫をしていることを明らかにしている。日本国内では非漢字圏の学習者が増えているが、こうした学習者に対する漢字教育に貢献する優れた研究である。次の課題は、どのようなストラテジーが漢字語彙学習に効果的かを探ることであろう。

(名古屋外国語大学外国語学部日本語学科 教授 尾崎 明人)

#### 選考委員

尾崎 明人	名古屋外国語大学外国語学部日本語学科 教授
棚橋 尚子	奈良教育大学国語教育講座 教授
森山 卓郎	早稲田大学文学学術院 教授
佐竹 秀雄	公益財団法人 日本漢字能力検定協会 現代語研究室 室長